

平成28年度茨城県立病院運営評価委員会（第2回）の開催結果

日時：平成29年2月1日（水） 17：30～19：00

場所：茨城県庁11階 1103会議室

【委員】

城西大学教授	伊関 友伸 氏
日製日立総合病院長	奥村 稔 氏
公認会計士	清水 至 氏
茨城県精神科病院協会長	高沢 彰 氏
筑波大学附属病院長	松村 明 氏
群馬県立小児医療センター院長	丸山 健一 氏
茨城県医師会長	諸岡 信裕 氏（委員長）
茨城県総合健診協会顧問（県医療改革担当顧問）	山口 巖 氏

【議事内容・意見等】

○平成28年度第1回委員会における意見への対応

意見	対応
中央病院がDPCⅡ群に復帰したのは評価すべきことであり、是非とも維持してほしい。 一方で、総合入院体制加算をとっていないということもある。これは更に収益改善につながるものなので、取得できるように取り組んでほしい。	DPCⅡ群病院を維持するとともに、診療報酬の基礎となるDPCデータを分析し、収益力の向上に努める。 また、総合入院体制加算などの新たな施設基準の積極的な取得に向けて、実績要件の充足のための取り組みを引き続き行う。
睡眠医療に関して、歯科等と連携をとったほうが県としても更に進んだ連携となると思うので、是非進めてほしい。	笠間市睡眠ネットワークでは、歯科医師も含めた勉強会を実施しており、今後は県歯科医師会との連携を積極的に図り、講演会・症例検討会などを通じて、歯科・医科連携を促進し睡眠医療ネットワークの充実に努める。

○主な意見

- ・ 病院の収益性を高めるためには、事務職が経営や企画などの専門性を持たないと対応できない時代になっているので、病院経験を積んだ営業、企画に強い職員の育成・採用や意識改革が重要である。
- ・ 医療機器等を導入する場合などにおいて、償却負担や収益計画をたてて、投資計画を考えることが重要である。
- ・ 医師の派遣などにより、過疎地域などの地域医療を支えている病院を応援しながら、今後の医療を考えていくことも重要である。